



CITY WATCHING

クローズアップ CLOSE UP

前橋の元気を駅前から

9月10日にまえきフェス・けやき並木フェスを同時開催しました。JR前橋駅前や上毛倉庫、けやき並木通りに飲食店や農産物の販売店など約30店舗が出店。その他、学生のダンスやミニ新幹線の運行なども行い、訪れた人の笑顔あふれる一日となりました。



東京で前橋名産をPR

9月8日・9日に恵比寿ガーデンプレイスで、本市と高崎市、宇都宮市、水戸市の北関東4市が連携して、きたかんマルシェを開催しました。各都市の名産品や農畜産物が一度に見られる大物産展。本市は赤城の恵ブランドなどの魅力を生産者が直接伝えました。



四公の歴史現場で学ぶ

前橋藩主・酒井雅楽頭家の菩提寺・龍海院で、9月17日に四公教養講座を開催しました。細見美術館上席研究員の岡野智子さんが御霊屋格天井絵の絵師などについて講演。講演後の天井絵見学では、参加者が江戸後期の画風などを熱心に確認していました。

東京都の綿商會館で7月に開催された中学生将棋名人戦で、全国から参加した164人の中から優勝を果たした。「決勝トーナメントの緒戦は、気負いもあって苦戦しました。準決勝、決勝はペースがつかめてきて自分らしい将棋が打て、勝つことができました。うれしいです」父親が将棋好きだったこともあり、4歳から将棋に親んでいた。兄や弟と競い合うことで、どんどん将棋にのめり込んでいった。「小3からは先生に付いて勉強を始めたんです。そこですっきりとした理論を知り、感動しました。序盤、中盤、

終盤と打ち分けができるようになり、力がつきました」同じ年で、世間の話題となっている藤井聡太四段の存在は刺激になっている。「藤井さんはコンピュータ相手に打っていることもあり、とにかく打ち手が正確。そこに鋭い一手が入るんです。対戦してみたいです」6月には年齢を問わず参加するアマ竜王戦に群馬代表として最年少で参加した。「大人と対戦するのが楽しかった。プロは目指してないので、アマチュアの大会での最年少優勝が新しい目標です。今は受験に専念して、高校でも全国優勝したいです」



アマ大会でトップを目指す



赤城の恵ブランド

寿幸ハナビラタケ

vol.48

圃ふらわーきのご園 ☎027-283-4777



おいしく食べて健康に。食感や見た目を楽しんでください。

ふらわーきのご園で栽培されている「寿幸ハナビラタケ」。白くてカーネーションの花びらのような見た目が特徴です。「ハナビラタケは成長が遅く栽培が難しいのですが、赤城南麓の気候や設備の整った自社工場、安定した生産ができるようになりました」と

社長の伊藤成さん。まだまだ食材としての認知度が低いので、珍しいハナビラタケを前橋から広めたいと語ります。きれいな見た目でなく、栄養素も豊富とされるハナビラタケ。シャキシャキとした歯応えで香りくせがなく、キノコ類が苦手でも食べやすい味。炒めたり天ぷらにしたり幅広い料理に使えます。この商品は、とんとん広場やイベントなどで販売。キノコが旬なこの時季、「寿幸ハナビラタケ」で秋の味覚を楽しんで

